

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
取組の概要と選定委員会からの主なコメント

代表校名 (連携校名)	埼玉医科大学 (群馬大学) 計2大学
事業名	埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成
事業責任者	副学長 森 茂久
事業の概要	
<p>埼玉県は、医師偏在指標が全国の中でも低く、医師不足は深刻である。特に、北部、利根、秩父医療圏では、患者の群馬県への流出も多く、この地域の医療需給に関する問題は、埼玉県のみならず群馬県の医療提供体制を考える上でも重要である。このような背景を持つ両県の医育機関である埼玉医科大学と群馬大学が、現在のみならず将来を見据えて、地域を基軸として地域医療の現状を学ぶこと、将来地域医療の中で必要となるがん医療、難病医療、遺伝医療などに入学早期から触れること、地域の医療機関における体験実習を拡充すること、感染症医療、コモンディジーズの診療を含む総合診療に関する教育を推進することを目指し、両大学の学生が参加する利根川プログラムをはじめとした5つの教育プログラムを開発し、地域で必要な知識・技能・態度・価値観を共有する地域枠医学生の育成に取り組み、将来の地域医療に貢献できる医療人を養成する。</p>	
選定委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○埼玉県は、将来の必要医師数（追加的に養成すべき医師数）が他県に比べて非常に大きく、プログラムを養成するフィールドとしての重要性が非常に大きい。また、受診の流れに沿った1年次からの地域医療・プライマリケア教育強化は重要であり、県境の教育連携を意識した本事業の効果が期待できる。</p> <p>○県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）は大変ユニークな取組であり、効果が期待できる。また、地域医療に関して、低学年から体系的なプログラムが計画されている。</p> <p>○「難病」や「救急」に特化せず、地域、総合、プライマリ、暮らしといったところに視点を当てている点は現場の実態にあったものであり、評価できる。</p> <p>○市中病院（特に小規模町立病院）や県庁を巻き込んでいることには一定の評価が可能。</p> <p>○2か月に一回程度の運営連絡協議会で、適宜、進捗状況や、方向性が確認される体制になっている。</p> <p>●人口が多いための医師不足状態という違った視点での重要な課題・特徴もあると考えられる。可能であればそのことを強く意識した新展開も欲しかった。</p> <p>●今後の実施体制については記載されているが、事業開始に向けた準備状況や、過去に整備された資源の活用に関する具体的な記載に乏しい。</p> <p>●自己評価体制については、記載では中間年まで外部評価を受けない計画になっており、改善が望まれる。</p> <p>●連携校側の取組みにもう少し工夫がほしいと考えられた。</p> <p>●取組の継続に関する記載がややあいまいで、実効性が低い。正規科目に取り入れることで科目としては継続できても、コンテンツの更新や、両大学・地域との連携が維持できるのか、疑問が残る。</p>	